城里町の文化財さんぽ（一八）

町指定文化財（史跡）「宝篋印塔」

指定年月日／昭和四七年一二月二七日
所在地／城里町下古内　管理・所有者／清音寺

清音寺境内にある町指定文化財「宝篋印塔」は、向かって右から「菩提佐竹貞義公」、「開山復庵禅師」、「開基佐竹義敦公」の墳墓塔と伝えられています。塔は、形態の特徴から南北朝時代のものとされ、材質は凝灰岩で、高さは一四〇センチメートルほどです。

菩提の佐竹貞義は、鎌倉時代後期から南北朝時代の武将で、当時常陸国北部を支配していた佐竹氏の九代当主です。足利高氏（尊氏）の倒幕軍に応じ、その功により常陸守護に任じられ、以後歴代の佐竹氏当主が常陸守護職を務めることとなりました。

開山の復庵禅師（復庵宗己）は、常陸国に生まれ、中国に渡って中峰明本の法流を嗣ぎました。帰国後、東国各地で布教に努め、没後、後光厳上皇から大光禅師の諡号が贈られました。城里町の名産である古内茶も、元々は復庵が当地にもたらしたものと伝えられています。

開基の佐竹義敦（義篤）は、佐竹氏十代当主です。文和元（興国六・一三五二）年に、復庵禅師を招いて、父佐竹貞義の菩提所として清音寺を中興開山し、寺号を太古山獅子院清音寺として臨済宗に改宗しました。義敦は、没後、この地に葬られ、以後、清音寺は佐竹氏の菩提所として繁栄しました。

なお、義敦の子どもたちは、小場氏、石塚氏、大山氏等となり、城里町内とその周辺に佐竹氏の勢力を拡大しました。

解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ　教育委員会事務局
☎029-288-3135

文芸しろさと

俳句

夕暮れて葱の匂へる河原畑　飯田　勇一
朝露やしっとりと咲く紅芙蓉　森　静江
秋の蝶久慈清流の風にのり　綿引　英子
長電話握る木の実の温もれり　鯉渕　寿美恵
新藁の残る陽の香に俵編む　仲田　まちゑ
長靴をあとは干すだけ草虱　竹内　幸子
晩秋や細長き吾が夕陽影　今瀬　多代美
晩秋の太陽ダムに映りけり　飯村　昭子
母と嬰の赤ちゃん体操天高し　瀬谷　博子
紅白の玉入れやっと運動会　岩下　金司
まくなぎに築の瀬音の立ちのぼる　田口　勝元
金木犀くしゃみの吾を見降ろせり　寺門　孝子

川柳

大相撲千秋楽の苦い酒　富田　多蔵
曇り日も輝くじい・ばあGG大会　車田　綾子
秋雨や田んぼ一面ゴルフ場　飯村　孝一
朝顔や隣りの垣根と知らぬ顔　川原　清

短歌

敬老の日のお便りを頂きぬ病ひなき身の有がたきかな　杉山　みちこ
快よき疲れに夕餉の仕度せり日暮まで庭の草引きをりて　渡辺　千紗子
リオの地にオリンピックは開かれて民族衣装も華やぎを添ふ　大森　久子
玉音を聴ひて過ぎにし七十余年八十七歳にして今を生かさる　青柳　京子
仏像を彫りゐし夫は仲間達と山形、宮城の寺々巡る　所　美恵子
職員が十七万のトップなり小池知事なる素晴らしき女　山形　式妙
音ありて空にはじける遠花火祭りの夜の闇深みゆく　枝　不美
切り通しの路に咲きたる白萩にふるればこぼるいとしき花よ　島　愛子
新米をたくさん頂きありがたし甘き香のする朝の食卓　坪井　きよ子
懐しき故郷想い遥かなる星空も見ゆオカリナの音色に　萩谷　登喜子
秋たけて鮭の遡上する那珂川に鳶数羽舞ふゆったりと舞ふ　冨田　佐智子
ポットには氷水いれ畑まで持ち来る夫の優しさ染みる　薗部　光子
めくるくせめくるくせつく短歌本心はれ晴れ生きてるあかし　富田　欽子